

復刻

# 歴代風俗写真集

大正五年から同十一年にかけて発行された『歴代風俗写真集』（芸艸堂）全十七冊を一冊にまとめた待望の復刻版



平安朝に勃興した武人の略装

風俗研究会 編  
江馬務 解説

B5・470頁  
定価27,500円（本体25,000円+税10%）  
ISBN978-4-8169-2972-4  
2023年6月刊行

日外アソシエーツ

## 復刻にあたっての解説より抜粋

本書に収録された写真は、大正五年から同一〇年にかけて実施された衣装写真会の様子を撮影したものであり、おおよそ時系列で収録されている。本書の製本は、美術書出版を手掛ける芸艸堂が担い、コロタイプ印刷の和装本として、大正五年から同一一年にかけて第一輯から第一七輯を発行している。第六輯以降は江馬の解説に加え、第三高等学校教授の瀧川規一による英語翻訳が付いており、国際的な展開を視野に入れていたことがうかがえる。第七輯は、研究会が大正七年に平安神宮で行った大鎧着初式の様子を全編にわたって収録している。甲冑を身にまとった会員等の雄姿は、確かな時代風俗考証に基づいているだけあり臨場感がある。本書は第一七輯をもって終刊となるが、跋文がないことから、もわかるように、それは予定された完結ではなかったようである。その事情については詳らかでないが、大正一三年には後継となる『歴世風俗印画集』を発行している。

江馬の時代風俗考証は、有職故実の知識に基づく正確さとビジュアルな点に特徴があり、それは本書を通じて初めて世に知られることになった。やがて江馬は時代劇映画の時代考証に係るブレインとして重宝されたり、社寺における祭礼や年中行事の考案や指導を依頼されたりするようになり、その研究成果は広く社会に受容されてゆくことになった。こうした活動の礎となったのが先述しているのが本書なのである。それはまた、京都画壇に足跡を残す画家や近代日本画史に重要な位置を占める者たちの教養や制作活動にも影響を与えたことが考えられる。

本書は、日本の風俗史や美術史を識るうえで、欠くことのできない貴重な書物といえよう。

青江智洋（日本風俗史学会会員）

## 収録写真例

- ①幕末女官外出姿 武家大礼装 平安朝の山法師
- ②懸想文売 鎌倉時代武士甲冑姿 徳川初代遊女姿
- ③江戸中期廊通ひの風俗 享保時代上流女装
- ④鎌倉時代下級武官の正装 江戸中期美人打砵の姿 南北朝時代武将小具足姿
- ⑤大和万歳の風俗 江戸時代中期婦人旅装 雛祭の風俗
- ⑥鎌倉時代大鎧の風俗 小松谷正林寺献灯会の風俗 今宮やすらひ祭の風俗
- ⑦大鎧著初式
- ⑧平安末期公卿衣冠の風俗 江戸時代末婦人風俗
- ⑨平安朝武人略装 徳川季世より明治初年に至る間京都に流行したる女子の髻 鎌倉時代の童子の風
- ⑩鎌倉時代武士狩装束 虚無僧の風俗 白拍子の風俗（その一）
- ⑪子の日の小松引の風俗 白拍子の風俗（その二）
- ⑫賀茂御蔭祭の舞人の姿 江戸中期雨中の男子姿 中世女子外出姿 狂言「貰い婿」の風俗
- ⑬上古の男子の風俗 江戸時代中期遊女堂狩の姿 狂言「清水」の風俗
- ⑭江戸時代武家大礼装 戦国時代戦士の風俗 桃山時代の婦人風俗
- ⑮平安朝初期の風俗を有せる太秦神像 天平時代婦人略装 鎌倉時代童子竹馬遊の風俗 室町時代下僕の風俗
- ⑯大覚寺蔵後宇多法皇御輿 鎌倉時代武士風俗 鎌倉時代雑兵の風俗 享保頃の花見美人の風俗
- ⑰大覚寺蔵光格天皇の御小直衣 江戸時代前期の奴姿 江戸時代中期娘姿 狂言煎じ物売の風俗

「電子書籍版」もあります（※「Maruzen eBook Library」「KinoDen」「EBSCO eBooks」に搭載）

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845  
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <https://www.nichigai.co.jp/>

取扱書店

注文書

復刻 歴代風俗写真集

定価27,500円(本体25,000円+税10%)  
ISBN978-4-8169-2972-4

冊



9784816929724



# 日本の風俗史や服飾史を識るうえで欠くことのできない貴重な書物

## 風俗史家 江馬務の時代風俗考証の成果と魅力を余すことなく収録

江馬務 えま・つとむ (1884-1979)

風俗史家、京都女子大学名誉教授、風俗博物館名誉館長。京都市生まれ。京都帝国大学文科大学史学科卒。有職故実を風俗史学として開拓。また溝口健二監督「元禄忠臣蔵」など、映画やテレビ、時代祭の時代考証家としても活躍。

『江馬務著作集』全12巻・別巻1巻  
(中央公論社 1975-1982)  
未掲載の写真を収録

- 『歴代風俗写真集』(全17冊、風俗研究会編、江馬務解説、芸艸堂、大正5年～11年)を1冊にまとめ復刻。
- 確かな時代風俗考証に基づいた調度や背景など、モデルだけでなく舞台セットなど空間の演出にもこだわったリアルな再現写真を収録。さらに調べやすくするために、新たに目次と写真一覧を付与。
- 江馬務の解説に加え、第三高等学校教授の瀧川規一による英語翻訳付き(6輯以降)。
- 結髪や化粧、衣装、小物など詳細な解説により、白黒写真では分かりにくい点も理解が可能。

## 江馬務 略年表

明治17年 明治44年	江馬務、京都市下京区に生まれる 風俗研究会、京都で発足。有職故実を風俗史学として開拓。 往事は600余人の会員を擁した
大正元年	江馬務、京都市立絵画専門学校(現・京都市立芸術大学)講師に就任。画学生を指導
大正4年	第1回扮装写生会(扮装実演会)を建仁寺両足院で開催。 江馬による時代風俗考証に基づいて、モデルが古代から現代に至る各時代の様々な立場の人物姿に扮装し、それを会員の画家が写生するというものであった。画家にとっては時代風俗考証の知識が得られるばかりでなく、写生技術の研鑽を積む絶好の機会となったようであり、参加者数は多い時で数百名にのぼった。江馬がモデルとなって公卿束帯姿に扮装したという。常連参加者の中には、上村松園や伊藤小坡といった京都画壇を担う顔ぶれのほか、有職故実の大家であった関保之助等がいた。また、扮装の様子は専属カメラマンを務めた山本湖舟や中江山花によって撮影された。
大正5年	風俗学会の機関誌「風俗研究」発刊
大正5年	『歴代風俗写真集』1～17(風俗研究会編、江馬務解説 芸艸堂 大正5-11年)刊行開始
大正10年	『日本風俗沿革図説』(山本文華堂 大正10-昭和4年)刊行
昭和6年	『正・続歴代風俗写真大観』(新光社 昭和6年)刊行
昭和31年	『図説日本風俗史』(誠文堂新光社 昭和31年)刊行
昭和50年	『江馬務著作集 全12巻・別巻1巻』(中央公論社 1975-1982)刊行開始
昭和54年	江馬務、心不全により逝去。享年94歳



第十回 江戸時代享保頃の花見美人 立ち姿 正面

↑ 今回新たにキャプションを付与

### The Costum of the Fille-de-Joie in the Kyoho-era (1716-1735 A.D.)

The dress of the lady-of-pleasure about the Kyoho-era of the Tokugawa period, when she is out to see flowers in Spring, is shown here. The model posed for the members of our Fuzoku-kenkyukai. The style her hair is dressed in is called Tamagawa-shimada. The garment worn by her is of crape, light blue, with designs of pinks, arbours, and characters in embroidery. It has small-sized sleeves ("kosode"). Her sash of brocade has a pattern of tortoise, tortoise-shells or hexagons, and pine leaves. She wears her clothes tucked up at the waist a little below the sash. The loose mantle called "kazuki" indicates the season of the year, for it was usually worn by this class of women in their flower-viewing. The stuff is linen, black in colour, with a pattern of pines, hollyhock-flowers and sails.

The complete costume used on the present occasion belongs to Mr. Sh. Nomura, Honorary Member of our Society. The mantle is a rare articles. We acknowledge here our great indebtedness to the owner of this costume.

T. EMA,

Tr. by K. TAKIGAWA.

▲享保頃の花見美人の風俗 解説(英語)

### 享保頃の花見美人の風俗

この六葉の寫眞は風俗研究会に於て扮装せし江戸時代享保頃の花見美人の姿なり  
髪は玉川島田に結び、衣服は水色縮緬に撫子四阿文字入縫箔小袖にして、絲錦龜甲  
に松龜文様の帯を締め、抱袖帯して、麻地黒に雲形松英帆文様の被衣を着したるは  
遊君の花見なるべし。  
衣服はすべて風俗研究会名譽會員野村正治郎氏の蔵にして、殊に被衣は當時の珍  
品なり。同氏より借用を得たるを光榮とし、厚く爰に謝意を表す。

▲享保頃の花見美人の風俗 解説

風俗史の研究はひとえに口耳或は文字に訴へて行はれ得るものに非ず。進んで各種服飾及びその着用法、調度及びその取扱法等の実物研究写生の機関を設け、歴代各種扮装、調度器具の故実習慣、典札作法に至るまで古書に拠り古老に説ひて之れを研究し、他日其の真を失はざらむことを努めつつあり。  
(風俗研究会同人 歴代風俗写真集序より抜粋)

▲江戸時代享保頃の花見美人